

# 学生センター前館長、辻建先生の思い出

飛田雄一（『むくげ通信』293号、2019.3.31より）



2009.5.16 学生センター講演会、辻建先生

「人間の営みは、いつも場所を媒介として行なわれます。思想的、政治的なものから家庭の営みにいたるまで／ですから、いつの時代でもおおよそ支配者が自らに批判的な人の集まりを弾圧するとき、それは場所の破壊、場所からの追放として現れました／自由な生の営みを願うものは、何ものからも干渉されることのない場所を獲得したいと願います。私たちのセンターは、そうした願いを実現しようとする一つのアプローチです／この園に市民共同体や文化や宗教の営みが花開くことを願っています。」

これはセンターの前館長 1977.12～1991.3、前理事長 2002.5～2009.5 の辻建先生が学生センターの最初のパンフレットに書かれた文章です。先生の学生センターにかける意気込みが感じられる文章です。



辻建先生は去る 3 月 17 日、心不全で亡くなりました。86 歳でした。葬儀が 3 月 20 日、先生が牧会されていた日本基督教団大島教会（山口県周防大島）で行われました。私と信長たか子さんが参列しました。

告別式は、周防教会牧師・大島教会代務牧師の村田敏さんの司式で行われました。辻先生が讃美歌、聖書の箇所もすべて遺言として残されていたものでした。これも遺言とのことで教会員の N さんきょうだいのフラダンス披露があり感動的でした。周防大島から多くの方がハワイに移民したことからハワイとの結びつきが強くフラダンスも盛んです。そのきょうだいのフラダンスを先生はとても気に入っていて告別式で披露するよというのも遺言であった

ようです。泣きながらのダンスでしたが、最後は微笑みをうかべたステキなフラダンスとなりました。



●  
学生センターの創立に尽力された辻先生は、牧師としての人生を全うされましたが、葬儀の冊子には以下のように略歴が記されています。

- 1932.10.1 京城府(現ソウル市)にて出生。父辰蔵、母すま。
- 1945 敗戦により、兵庫県城崎町へ家族と共に引き揚げる。豊岡中学校、豊岡高校を経て、日本大学に入学するも、結核のため退学、城崎での療養生活を余儀なくされる。
- 1953 日本基督教団城崎教会にて受洗。キリスト者としての歩みを始める。
- 1958.4 関西学院大学神学部入学。神学の学びを本格的に始める。新約聖書学を専攻し、松木治三郎教授の指導を受ける。
- 1963.3.2 河原美代と結婚。後に長男学と長女歩が生まれる。
- 1964.3 関西学院大学大学院神学研究科修士課程修了(神学修士)。4月より同神学部助手および日本基督教団主恩教会伝道師。
- 1967.4 日本基督教団宝塚教会牧師。後に日本基督教団書記(1980～88)、同副議長(1986～88)を歴任。
- 1997.8.14 妻美代死亡。
- 1999.4 日本基督教団夙川東教会牧師。
- 2009.4 山口県周防大島に移住。日本基督教団大島教会協力牧師となり大島教会での説教と牧会を始める。
- 2019.3.17 心不全のため周防大島町立橋病院にて逝去。享年 86 歳。

●  
学生センターは、1955 年にアメリカ南長老教会が「六甲キリスト教学生センター」として設立しました。1996 年にはその伝道活動が日本基督教団兵庫教区に委譲されました。辻先生は小池基信先生とともに

に兵庫教区から派遣されて当時の学生センターの活動に関わられました。そして、その後の1972年4月の財団法人神戸学生・青年センターの設立のために尽力されました。

私は、1978年4月にセンターに就職しましたが、それ以前の3-4年間はセンターのアルバイトとして週3-4回働いていました。その中で、大学卒業後には正式職員として採用してもらうという約束を小池先生、辻先生からとりつけていました。卒業が少し遅れましたが無事就職できたのでした。(アルバイト中に「つば」をつけていたというのでしょうか・・・)

もともと小池先生、辻先生は大先輩でしたが、ベ平連の仲間でもあり、牧師の田中英雄さんが兵庫ベ平連のポスターを貼っていて逮捕され裁判になったときには一緒に裁判闘争に取り組んでいました。1972年6月からスタートしたセンターの朝鮮史セミナーは理事であった韓哲曦先生、辻先生が中心になって始められたもので、当時学生だった私も受講生として参加していました。

そして辻先生は1976年、朝鮮語講座がスタートしたときの1期生でもありました。先生は佐久間英明さん、生徒は信長正義さん、たか子さん、山根さんらです。辻先生がカメラマンだったのか下の写真に辻先生は写っていません。みんな若いこと・・・。



1995年の阪神淡路大震災のときも辻先生が理事長でした。当時センターは被災留学生の支援活動に取り組み、生活一時金3万円を支給しました。交通が遮断されていましたが、宝塚在住の確か関西学院大学の留学生在が複数、学生センターまで受け取りに行けないとの連絡が入りました。そこで辻先生が牧師をしていた宝塚教会でお金をお渡しすることにしたこともありました。震災当時、ほんとうに臨機応変・・・でした。震災時の留学生の延長線上に作られた、いまは古本市で有名な六甲奨学基金の初代運営委員会も辻先生でした。



私は、今年2月17日、先生が亡くなる1か月前に大島教会を訪ねました。実は、そのころ大島

教会のメンバーのNさんのFacebookに写っていた辻先生が余りにも弱々しくて、ぜひ機会をつくって訪問しようと思ったのでした。前日の2月16日に山口県宇部の長生炭鉱で朝鮮人労働者の追悼集会あり、私も共同代表をしている強制動員真相究明ネットワークが参加して挨拶することが求められていたのです。当日岩国に泊まりレンタカーで教会までいきました。(3-4年ぶりに車を運転したので少し肩が凝りました・・・)



2019.2.17 大島教会で辻先生と

礼拝はNさん家族4名と私、そして辻先生の6名でした。礼拝後、先生の体調はすぐれないようでしたが、1時間ほどいろんなお話をすることができました。ほんとうによかったと思います。周防大島といえば昨年はマスコミの話題になりました。連絡橋に船が衝突して1か月も水道が使えなかったり、スーパーボランティアが行方不明となった少年を見つけたり、大阪から逃げた容疑者がサイクリングで周防大島の役所で記念撮影をしたりしました。水道不通の1か月は首尾よく(?)先生は入院中で牧師館での不自由なひとり生活をしないですんだこともそのとき伺いました。帰路「日本ハワイ移民資料館」に立ち寄りました。小さいですが内容のある記念館でした。そこで放映されていたのが「行こかメリケン、帰ろかジャパン—ハワイ官約移民100年」(テレビ山口1985年)。後日、テレビ山口にお願いしてDVDを授業でのみ使用を条件に送っていただきました。現在の外国人労働者の問題も視野に入れたドキュメンタリーです。



周防大島・日本ハワイ移民資料館